

豊山町 認知症ケアブック

認知症になっても安心して暮らせるまち豊山

認知症の方やその家族が、できる限り住み慣れた豊山町で安心して暮らし続けることができるよう、認知症の症状に応じた支援や、医療、介護サービスの情報を掲載しています。



豊山町マスコットキャラクター
地空人くん

目次

①認知症とは	P2
②受診について	P3
③認知症疾患医療センター	P3
④認知症の症状の変化や対応について (認知症ケアパス)	P4,5
⑤若年性認知症について	P6
⑥支援内容について	P6
⑦認知症初期集中支援チーム	P7
⑧とよやまオレンジプロジェクト	P8
⑨認知症や介護に関する相談窓口	P8

はじめに

認知症はだれでもなる可能性のある病気で、2050年(令和32年)には約600万人、65 歳以上の高齢者の約6人に1人が達することが見込まれています。厚生労働省「認知症および軽度認知障害(MCI)の高齢者数と有病率の将来推計」より)

しかし、早めに気づき、適切な診断と治療や周りの方が正しい対応をすることにより、病気の進行を遅らせることも可能です。また早期に地域の支援や介護サービスを利用することにより、住み慣れた豊山町で、自分らしく安心して生活することが可能になります。

豊山町では、認知症に関する様々な取り組みを行っています。ご自身やご家族の将来のためにもこの「認知症ケアブック」をご活用ください。

① 認知症とは

認知症とは、脳の神経細胞が損傷を受けたり働きが悪くなったりして、記憶や判断力などの認知機能が低下し、日常生活に支障をきたす状態です。

認知症は、さまざまな病気によって引き起こされ、代表的なものには次の4つの種類があります。

脳梗塞、脳出血、脳動脈硬化などの脳の血管の損傷が原因で、神経細胞に栄養や酸素が行き渡らなくなります。

社会性の欠如、万引きや信号無視などのルール違反、言語障害・記憶障害などがみられます。

主な認知症と疾患部位
脳血管性認知症

アルツハイマー型認知症

前頭葉

頭頂葉

側頭葉

後頭葉

前頭側頭型認知症

レビー小体型認知症

脳の神経細胞への影響が原因で、記憶障害が著しく、特に最近の記憶(短期記憶)が不得意になります。

記憶障害やパーキンソン症状、幻視などの症状がみられます。

■認知症中核症状の例



■周辺症状 (BPSD): 認知症に伴う行動・心理症状の例



認知症の症状は、中核症状と周辺症状(BPSD)の2つに分けられます。中核症状は、記憶障害や見当識障害など、周辺症状は徘徊、妄想、無気力、抑うつ、暴力行為などです。

② 受診について

認知症は早期の発見と治療がとても大切な病気完治が難しい病気とされています。しかし、早期に発見して適切な対処をすれば、自分らしく生きるためのヒントを見つけることができます。

～早期発見・早期治療が大切です～

早期発見による3つのメリット！

早期治療で改善も期待できる。

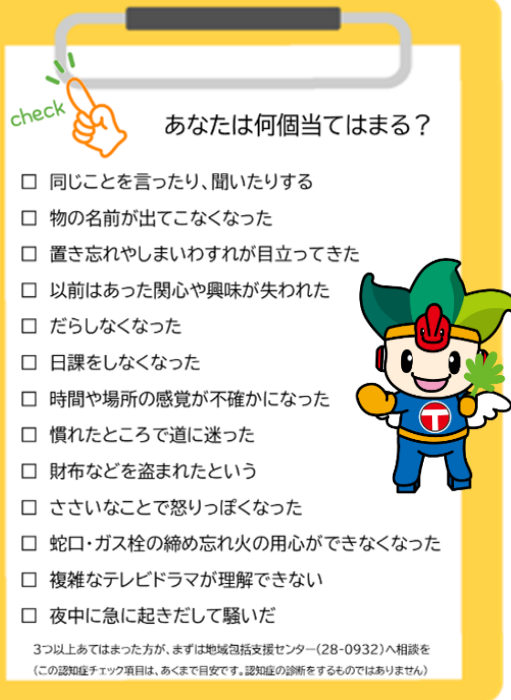
認知症の原因になる病気はさまざまですが、早期に発見し早期に治療をはじめることで、改善が期待できるものもあります。

進行を遅らせることもできる。

認知症の症状が悪化する前に適切な治療やサポートを行うことによって、その進行のスピードを遅らせることができる場合があります。

事前にさまざまな準備ができる。

早期発見によって、症状が軽いうちに本人や家族が話し合い、今後の治療方針を決めたり、利用できる制度やサービスを調べたりして「認知症に向き合うための準備」を整えることができます。



check

あなたは何個当てはまる？

- ☐ 同じことを言ったり、聞いたりする
- ☐ 物の名前が出てこなくなった
- ☐ 置き忘れやしまい忘れが目立ってきた
- ☐ 以前はあった関心や興味が失われた
- ☐ だらしくなった
- ☐ 日課をしなくなった
- ☐ 時間や場所の感覚が不確かになった
- ☐ 慣れたところで道に迷った
- ☐ 財布などを盗まれたという
- ☐ ささいなことで怒りっぽくなった
- ☐ 蛇口・ガス栓の締め忘れ火の用心ができなくなった
- ☐ 複雑なテレビドラマが理解できない
- ☐ 夜中に急に起きだして騒いだ

3つ以上あてはまった方が、まずは地域包括支援センター（28-0932）へ相談を
（この認知症チェック項目は、あくまで目安です。認知症の診断をするものではありません）

③ 認知症疾患医療センター

認知症疾患医療センターは、認知症に関する専門医療を提供する医療機関です。認知症の方やその家族が住み慣れた地域で安心して生活できるように、地域における医療機関との連携や、介護サービス事業所との連携などを行っています。

◆センターの役割◆

専門医療相談：認知症疾患医療に関する相談に、専門医・看護師・医療相談員が対応します。

認知症の鑑別診断と治療：病院を受診していただき、認知症の詳しい診断や治療を行います。

認知症専門診断：認知症疾患に関する鑑別診断、地域における医療機関などの紹介、周辺症状や身体合併症への急性期対応などについての専門医療相談を実施。

など

認知症疾患医療センター

済衆館病院

北名古屋市鹿田西村前111番地

電話 (0568)21-0811

認知症疾患医療センターホームページ→



④ 認知症の症状の変化や対応について(認知症ケアパス)

①軽度認知症 障害(MCI)

②認知症 前期

主な症状	健康と認知症の中間段階です。早めに気付くことで認知症を防ぎましょう。 ●約束をよく忘れるようになる ●身だしなみや趣味への関心がなくなる	周囲が「あれ？」「おや？」と思うことが増えてきます。これ以上進行させないサポートとケアが重要です。 ●物忘れしている自覚がなくなり、何度も同じ話をする ●買い物では同じものを購入したり、支払いをお札でするようになり小銭がたまる
本人の気持ち	「何かが違う」と感じて、年のせいと思って見過ごす人や、診察を避ける人も少なくありません。 ●物の名前がすぐに出てこなくなる ●時々、約束を忘れるような気がする	認知症と診断されれば誰でも動揺します。不安や悔しさはありますが、一方で自分なりに残された力を活かしたいという前向きな想いを抱いています。 ●今までできていたことができなくなり、悔しい気持ちやイライラする ●この先どうなっていくのか不安
本人の生活のポイント	MCIの段階で認知症の進行を防ぐために、下記のような生活習慣を心掛けましょう。 ●規則正しい生活とバランスの良い食生活、適度な運動をしましょう ●地域の行事に参加するなど、地域や近所の人と1日5人以上の人と会話し交流しましょう	認知症になっても人生の主人公は本人自身。人の助けを借りながら主体的な生活意欲を持ち続けましょう。 ●進行を遅らせるため、通院・服薬を守りましょう(P3) ●認知症カフェ(P8)など、同じ悩みをもつ仲間に出会える場所にでかけましょう
接し方	生活意欲が失われないように、積極的にコミュニケーションしましょう。 ★話に耳を傾け、おしゃべりする時間を大切にする！ ★認知症サポーター養成講座(P8)などで認知症の学ぶ	大切なのは、本人の視点にたったケア思いや状態を的確にキャッチすることが出発点です。 ★会話や行動はゆっくり急かさず、本人のペースに合わせる ★失敗を繰り返しても「大丈夫！」とおおらかな気持ちで受け止める

認知症ケアパスとは認知症の進行状況にあわせた医療、介護、支援の流れを紹介したものです。認知症は進行とともに症状が変化していきます。「本人の様子」の例をみて、今後の対応や介護の参考にしてください。

③認知症
中期

④認知症
後期

周囲が驚くような周辺症状(P2)が現れることも。慌てずに、本人の心理状態を理解して対応しましょう。 ●物忘れが激しくなり、家に帰れないなど混乱する ●言葉がうまく出なくなり、人の話を理解するのが難しくなる	生活全般に介護が必要になりますが、心は動いています。尊厳を認めてあたたかい気持ちで接しましょう。 ●失禁や転倒・骨折、感染症などが起きやすくなる ●食事の量が減ることもあれば、急に大量に食べることがある
不安やいら立ち、不快感、孤独感に包み込まれています。困りごとを減らし、支えてほしいという気持ちがあります。 ●家族に迷惑をかけてすまないと思っている ●怒られても理由がわからず、不快感だけがある	周辺の状態が分からなくても、喜怒哀楽(感情記憶)は感じています。 ●なじみのある人・環境の中で暮らし続けたい ●笑顔で優しく話かけられるとうれしい ●無理にオムツをはかされるのは嫌
認知症になっても、分かること、やりたいこと、できることはあります。できることに目を向けましょう。 ●周囲に手伝ってもらいながら、できること、得意なことを続けましょう ●自分らしさが発揮できる機会や場に参加しましょう	寝て過ごすことも多くなりますが、安全で安心できる気持ちで毎日を過ごしていきましょう。 ●ケアマネジャーや医療・介護のスタッフときちんと連携し、気持ちの良い日々を過ごせるようにしましょう
周辺症状が現れると介護の負担も増しますが、本人が安心を感じられると、周辺症状は緩和されます。 ★がんばりすぎは禁物。介護保険サービス(P6)を利用して、自分の時間も確保する ★外出時には身元がわかるものを身に付ける(P6)	心身の衰弱が進んできます。本人にとって少しでも気持ちよく、安心できるようなケアをこころがけましょう。 ★食事のときにむせないように注意する ★手を握ったり背中をさすったりスキンシップする

⑤ 若年性認知症について

若年性認知症とは

認知症は、一般的には高齢者に多い病気ですが、65歳未満で発症した場合、「若年性認知症」とされます。若年性認知症は働き盛りの世代で発症するため、ご本人だけでなく、ご家族の生活への影響が大きくなりやすい特徴があります。

病気のために仕事に支障がでたり、仕事をやめることになって経済的に困難な状況になることがあります。また、子どもが成人していない場合には親の病気が与える心理的影響が大きく、教育、就職、結婚などの人生設計が変わることになりかねません。さらにご本人や配偶者の親の介護が重なることもあり、介護の負担が大きくなります。

専用相談先

愛知県若年性認知症総合支援センター

電話:0562-45-6207 【相談時間】月～土 10:00～15:00（年末年始・祝日除く）

子どもの就学支援

窓口:社会福祉協議会 /教育ローンコールセンター(0570-008656)

- ・世帯の経済状況により、国の制度や学校でも奨学金や学資免除を受けられる場合があります。また、生活福祉資金(教育支援資金)の貸付を受けられる場合があります。

⑥ 支援内容

要介護認定

窓口:介護グループ 役場1階3番

- ・65歳以上の方は介護認定を申請することができます。
- ・65歳未満でも、40歳以上であれば、「特定疾病」に該当する場合は介護保険を申請することができます。
- ・介護認定を受けることにより、各介護保険サービスを受けることができます。

日常生活自立支援事業

窓口:社会福祉協議会

- ・認知症や障害者のうち、判断能力が不十分な人が、地域において自立した生活を送ることができるよう、契約に沿って、福祉サービスの利用援助等を行います。

成年後見制度

窓口:成年後見センター(社会福祉協議会)
/ 地域包括支援センター 役場1階3番

- ・認知症・知的障害・精神障害などの理由で判断能力が十分ではない方の判断能力を補い、権利や財産を保護し、本人や家族が安心して生活できるように支援する制度です。

徘徊時の居場所を検索できるGPS端末の利用補助

- ・高齢者が徘徊して行方不明になることを防ぐために、GPS機器の利用補助をします。

おかえり支援サポーターを募集しています

豊山町の高齢者の方が認知症にともなう徘徊行動で行方不明になった場合、その情報をメールにより受け取り、可能な限りで捜索に協力していただける方(おかえり支援サポーター)を募集しています。

【サポーター登録方法】

①携帯でQRコードを読み取る →→ →→ →→ →→ →→ →→



又は

②次のアドレスに空メールを送る t-toyoyama@sg-m.jp

※「@sg-m.jp」ドメインからのメールが受診できるように設定してください

③登録カテゴリの中から「高齢者見守りメール」の配信登録をする



おかえりネット(認知症徘徊高齢者等SOSネットワーク事業)

豊山町は、対象者の行方不明発生時の早期発見等のために、提出された「認知症徘徊高齢者等SOSネットワーク事業登録届」を西枇杷島警察署に提供します。

対象者が行方不明となった場合、申請者は警察署に行方不明届を提出し、警察署より捜索の依頼の連絡を受けたときは、豊山町防災無線放送並びにメール配信登録者(以下「おかえり支援サポーター」という。)及び地域見守り事業所等にメール配信をします。

⑦認知症初期集中支援チーム

認知症サポート医、看護師等で構成される、認知症の支援チームです。

認知症が疑われる人や認知症の人および家族を訪問し、認知症に関する心配事や悩み等の相談に応じたり、医療機関の受診や介護サービス利用支援等、認知症に関するサポートを行います。

利用の例

1人暮らしを
続ける為の
工夫

受診の
サポートや
アドバイス

介護保険など
サービス利用
のサポート

◆対象者◆

在宅で生活している認知症または認知症が疑われる人で以下のいずれかに該当する場合

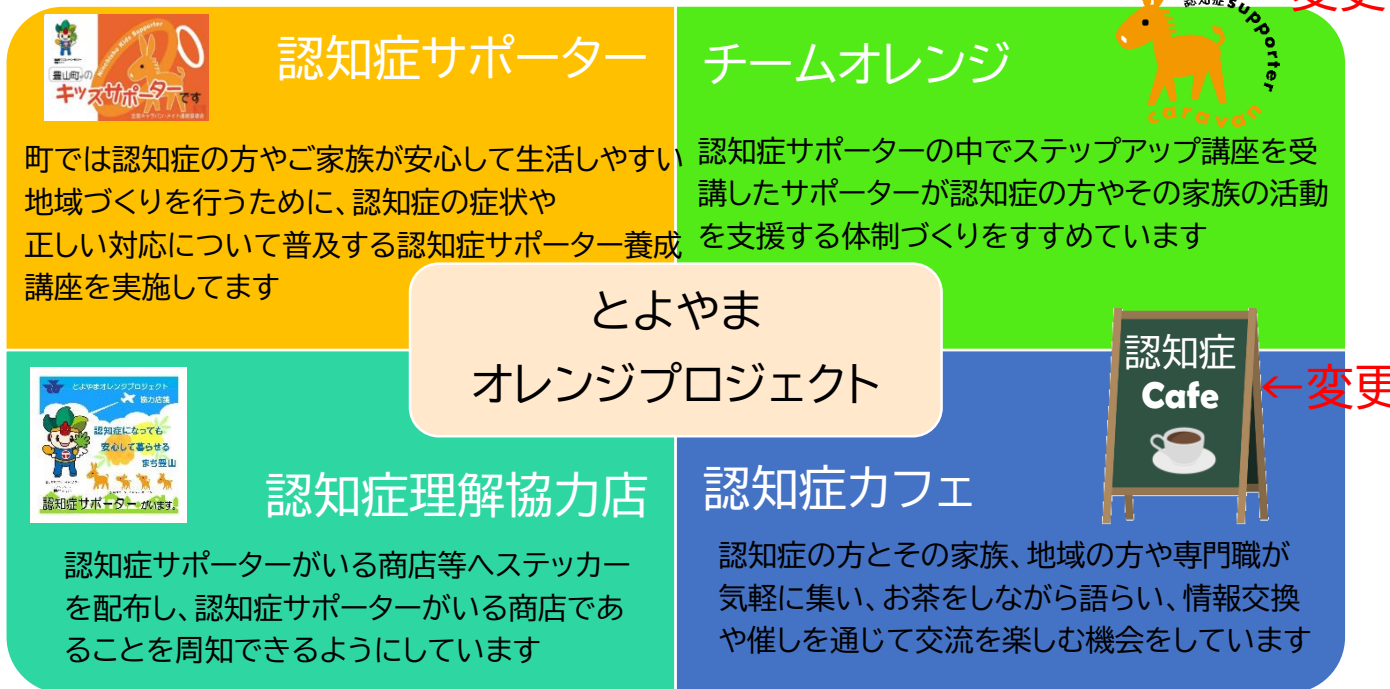
- ・認知症疾患の診断を受けていない人や治療を中断している
- ・適切な医療サービスや介護サービスを受けていない
- ・医療や介護サービスを利用有無に限らず、認知症の行動・心理症状が顕著なため、家族や関係者が対応に悩んでいる

相談や依頼については豊山町地域包括支援センターあおぞらで受け付けております。

⑧ とよやまオレンジプロジェクト

～認知症になっても安心して暮らせるまち豊山～

認知症へ理解、普及を地域へ広げていき、町全体として認知症の方とその家族が暮らし続ける地域づくりを展開していく。



⑨ 認知症や介護に関する相談窓口

相談窓口

名称	住所	電話番号
豊山町地域包括支援センター あおぞら	豊場字新栄260番地 (豊山町役場1階3番窓口)	0568-28-0932
豊山町社会福祉協議会	豊場諏訪270	0568-29-0002

認知症電話相談

名称	相談時間	電話番号
愛知県認知症電話相談	○開設日:月曜日から金曜日 (祝日、年末年始は除く) ○開設時間:午前10時～午後4時	0562-31-1911
認知症の電話相談 (公益社団法人認知症の人と家族の会)	○開設日:月曜日～金曜日 (祝日・年末年始除く) ○開設時間:午前10時～午後3時	0120-294-456
愛知県若年性認知症総合支援センター	○開設日:月曜日～土曜日 ※祝日、年末年始を除く ○開設時間:午前10時～午後3時	0562-45-6207